

評議員会報告

最終更新：1997年1月28日

日時・場所

1997年1月25日・国立天文台三鷹

出席者

今井、大野、奥田、海部、古在、小平、笹尾、杉本、高原（議長）、谷口、福井、（尾中、渡邊、田中）（出席11名、委任状11名）

議題

1. 学術会議会員候補者および推薦人について

選挙管理委員会からの報告に基づき、議論の結果、最高得票数の池内氏（317票）とさらに投票によって、小平氏を候補者と決定した。推薦人については、議論の結果、杉本氏、尾崎氏、高原氏（予備）と決定した。

2. 新定款の認可および定款細則案について

庶務理事（渡邊）より新定款が昨年12月24日に認可されたことが報告された。その条件として、次の3点を理事長名で文部省に約束している。

1. 定款第42条の定足数1/5を1/2に改訂するよう総会に提案すること。
2. 定款第55条の議決に必要な数2/3を3/4に改訂するよう総会に提案すること。
3. 天文学会の基本金を2000万円に増額すること（現在930万円）。

この3点については、理事会で必要性を議論した上で評議員会に再度提案するようという意見が出された。引き続き、定款の細則・内規についての議論に移り、天体発見賞以外については、若干の字句の訂正の後、了承された。天体発見賞に関する細則については、特に授賞対象に関する言葉の意味の不明な点が幾つか指摘され、次回までに委員会および理事会で再検討するように結論された。

3. 1995年期天体発見功労賞の未決の件について

昨年度の評議員会において強く推薦された件について、天体発見賞選考委員会で再検討した結果、評議員会の意に反する結論が報告された。これに対して、強い反論が出たが、今回はこれ以上は議論しないということで決着した。

4. 年会プログラムの月報非掲載について

庶務理事（田中）より前回および今回の年会のプログラムを月報に掲載しなかった件についての、月報編集委員会および年会実行委員会での再議論の内容が報告された。これに対して、多くの評議員から、このような報告は開き直りであり、大変けしからんことであるとの強い意見が出された。評議員会としては、先回の評議員会で、月報にプログラムを掲載するかどうかについての議論をするように委員会に要求したのではなく、天文学会の最高議決機関（総会を除いて）として、理事会と各委員会に対して、掲載するようとの結論を申し渡したのであると確認された。

庶務理事：田中培生